

## 平成 27 年度事業報告

### 中長期(5年)計画

将来、クラブミーティング活動等を通じて滑空界のコンセンサスを築いたうえで改訂するが、当面この方針を継続する。

- ① 当協会調査では国内滑空団体所属会員総数は3,000人、公益財団法人日本学生航空連盟OB数は10,000人。当協会は国内滑空スポーツ統括団体として、全ての愛好家を考慮した施策を行う。また航空スポーツ発展のため、“空”の仲間である航空スポーツ諸団体と連携する。
- ② 滑空スポーツ振興として、“安全”と“楽しさ”を目標とする。  
“安全”について:滑空スポーツ統括団体、滑空クラブ、指導者、パイロット、同乗者など、それぞれの義務と責任を明確化し、安全性向上を図る体制を構築する。  
“楽しさ”について:滑空スポーツ愛好者の“夢”の実現を支援する事業を実施する。
- ③ 滑空スポーツ活動を場周飛行とローカルソアリングから野外飛行に向かい、競技振興を図り、日本滑空選手権を再開する。

## 平成27年度事業報告

### 1. 滑空スポーツ統括普及に関する事業

滑空機は航空法の適用を受ける。当協会は滑空界代表として、個人や個々の滑空団体では対応困難な官公庁、航空界との調整などに当る役割がある。滑空界の状況や意向を適確に掌握し、情報を滑空界に伝達して滑空界のコンセンサスを得、対応するよう努めている。

#### 1.1 滑空スポーツ関連の調査

\*滑空スポーツ基礎データ(滑空場、滑空機、機材、愛好者、活動)についての調査、集計

50 団体にデータ提供を求め、34 団体より提供を受ける。開始して5年目になり、データ集積が進む。飛行回数は前年と同じ 49000 回だが飛行時間は 9031 時間から 14099 時間に増加。

#### 1.2 航空関係諸団体との連携、相談答申

\*滑空団体との連携

- ・滑空界にメールで情報提供を行う。6 月から小型航空機の事故が多発したため、その週に発生した事故を週末までに各団体宛配信し、週末の飛行前ブリーフィングでメンバーに伝達していただくようにした。(事務局)
- ・安全な運航を確保するため、有志団体と連携し、情報交換する動きを始めた。(篠原治男リーダー)
- ・クラブミーティングを通じて滑空界全体の一体化を進め、参加団体を増やす活動を行っている。長野(6/20-21 長野)および板倉(11/28-29)でミーティング開催(日口理事)

\*FAI(IGC)

- 日本代表:Delegate 丸山理事、Alternate Delegate 甲賀常務理事
- ・IGC 総会に出席 2/26-27 ルクセンブルグ 丸山理事、甲賀常務理事
- ・昨年 10 月より施行された FAI 銀章課目 50km 規程変更について、広報に努める。
- ・FAI エアースポーツメダル:櫻井 玲子

・日本記録賞 齋藤 岳志 国内 780km (同時に FAI アジア大陸記録として認定)

\*外部委員会活動

- ・航空医学委員会(事務局 JAPA JSA 甲賀常務理事)
- ・技量維持連絡会(事務局 JAPA JSA 甲賀常務理事)
- ・学科試験問題検討委員会(事務局 JAPA JSA 小野淳委員)
- ・裾野拡大プロジェクト(事務局 JAPA JSA 吉田正克常務理事)

\*航空スポーツ団体との連携、デモ、展示など

- ・SSF2016 10/25(日)於妻沼滑空場 グライダー、モーターグライダーのほか気球、ハング・パラ、ウルトラライト、パラモータ、エクスペリメンタル、模型が参加。ゲストとして参加したレッドブル室屋義秀氏が華麗なデモフライトを披露。晴天だが強風のため、レッドブルおよびモーターグライダー以外のフライトは無かったが、昨年の倍12000名が来場。

SSF 実行委員長:井上理事、JSA 実行委員:吉田常務理事、甲賀常務理事

\*自衛隊、使用事業などとの連携

- ・関東地方空域に関する連絡会(7/21 入間基地、2/5下総基地)を通じて連携を図った。

## 1.4 情報発信

\*ホームページ運営 担当坂井常務理事

協会ホームページへの整理、内容強化。

\*機関誌発刊(7、11、3月、全3回) 編集長 久田雅樹委員、坂井常務理事

306~308号発行、750部 会員および航空関係者に配布。内容充実を図った。

## 2. 滑空スポーツ愛好者育成に関する事業

### 2.1 指定航空従事者養成施設

\*制度運営 設置者:佐藤会長、管理者:鈴木常務理事、事務局長:玉中宏明、監査人:谷口監事

第1期 6/20-8/2 宝珠花1名、第2期 7/25-8/9 山梨 中止、第3期関宿11/14-12/6 4名、

第4期 2/20~3/21 宝珠花 1名、第5期 2/6~3/6 中航連 2名。

### 2.2 日本滑空記章制度

\*任期満了による日本滑空記章試験員およびFAI公式立会人の任命手続を行ったほか特に変更なし。

### 2.3 講習会・セミナー

\*ニューランドセミナー 6/13 於ニュー新橋ビル内 講師 Gavin Willis、日口 裕二

\*航空安全講習会(事務局)

航空局通達に基づく自家用操縦士の技量維持のための講習会として技量維持連絡会(航空関係 5 団体)と連

携して実施して来たが、特定操縦技能審査制度が実施され、変化した。東京(1/25)および旭川((3/5)で実施。  
50名受講。

#### 2.4 インストラクターマニュアル作成

有志により BGA Instructor Manual を翻訳し、それを基に日本の滑空環境・制度に合致したマニュアルを作成するプロジェクト(相島 正敏委員長)

### 3. 滑空スポーツ競技会に関する事業

#### 3.1 競技会主催

\*将来的に日本滑空選手権を FAI カテゴリー2で開催し、その中から WGC 出場選手を選び、ナショナルチームとして参加することを目標に、準備を進める。特に進展なし。

\*2015年 IGC 総会会場で OLC 主催の Mr. Reiner Rose に依頼し、OLC ページの日本語化および日本関係データ集計を行っていただき、使いやすくなった。OLC がボランティア組織で活動していることに鑑み、国内 OLC 利用者に OLC への寄付を依頼、ほとんどの利用者が寄附に応じた。(丸山理事)

#### 3.2 競技会後援:協会規程に基づいて、国内滑空競技会の後援(名義後援、賞状授与、ほか)を行った。(事務局)

\*銅章レベルの滑空スポーツ競技会又はクラスで最高レベルの競技会:日本滑空協会賞授与

第18回東京六大学対抗グライダー競技会 8/30-9/6 於妻沼滑空場

団体優勝 法政大学 最優秀選手 船橋 友和(東京大学)

第56回全日本学生グライダー選手権大会 3/1~8 於妻沼滑空場

団体優勝 慶應 Discus チーム 最優秀選手 田中 努 (早稲田大学)

第45回早慶対抗グライダー競技会 3/10~16.於妻沼

団体優勝 慶應義塾大学 最優秀選手 青池 秀人(慶應義塾大学)

第18回全日本学生グライダー新人競技大会 10/9~15 於木曾川滑空場

団体優勝 早稲田大学、最優秀選手 松村亮沙 (慶應義塾大学)

第9回全日本高等学校滑空選手権大会 7/30-8/1 於妻沼滑空場

第1部優勝 山路 優輝 (慶應義塾高校)

第2部優勝 遠井 俊宏(日本航空高等学校石川) および 芝 悠介(慶應義塾高等学校)

\*C章レベルの滑空スポーツ競技会:滑空奨励賞授与

第33回久住山岳滑翔大会 4/30-5/5 於久住滑空場 優勝 竹居 拓哉(岐阜大学)

第11回おおのローズカップ 5/3-5 於大野滑空場

団体優勝 8Bits、最優秀選手 松田 光風(名古屋大学)

第19回「原田覚一郎杯」大学対抗グライダー競技大会 8/8-16 於妻沼滑空場

団体優勝 青山学院 A チーム、最優秀選手 三好 航太(青山学院大学)

第55回全国七大学総合体育大会航空の部 2/18-25 於関宿滑空場

団体優勝 東京大学 最優秀選手 柴田 翔 (東京大学)

#### 3.3 海外選手権への選手派遣(推薦、支援)

18<sup>th</sup>.European Gliding Championships 7/12-25 Osecny Hungary

18m クラス 丸山 毅 28 選手中 20 位相当

20m 複座クラス 市川 展/市川 朱美 31 選手中 2 位相当(首位と1点差)

大陸外参加のため順位は与えられない。

#### 4.1 会員

\* 滑空スポーツ愛好者の高齢化が進み、飛行活動からの引退と共に協会からの退会が増加している。

これに対して若年層の会員登録率が低く、世代交代がスムーズに行われていない。

#### 4.2 法人の体制強化、事務局業務の整備

\* 公益社団法人化後ほぼ3年経過し、大過なく運営している。会員数減少に伴う収入減に対応して、事務局稼働日週1日削減などの経費削減を行っている。ただしマンパワー不足は否めない。

#### 4.4 会議

\* 理事会:平成 27年度総会議案策定(5/16 於航空会館)、平成 28 年度事業計画案・予算案策定  
(2/8 於航空会館)

\* 定時総会:平成 26 年度決算報告承認、事業報告 (6/13 於ニュー新橋ビル)

以上